

事例研究報告

小学部児童への他害行為の消去 を目指した取り組みについて

児童・生徒の実態

<行動>

- ・多動，衝動性が強く，常に手をつなぐか側での見守りが必要。
- ・手に物を持つと，投げたり口に入れたりすることが多い。
- ・写真カードによるスケジュールを理解し，カードに沿って活動できつつある。

<学習>

- ・呼名されると「はあい」と返事ができる。
- ・簡単な言語指示が理解できることがある。

<人間関係>

- ・簡単な挨拶ができる。
- ・人との関わりを好み，大人に対して手を繋ごうとすることがある。
- ・関わりが薄い人には，叩いたり蹴ったりしてコミュニケーションを取ろうとする。

保護者の願い

- ・落ち着いて生活を送り，友だちと集団活動ができるようになってほしい。

教員の願い

- ・自分の思いをふさわしい言動で表し，他者とよい関わりを持ちながら，ともに生活ができるようになってほしい。

アドバイザーからの助言

- 他害を避けるために、本人と身体的な距離を取り、指示が聞けるようにする。
 - 指示で動く行動を増やすことで適切な距離間を学び、他害の減少を目指す。

<方法>

- 個別学習を増やし、指示で動く行動を獲得する。
 - 個別の学習部屋を用意する。
 - 椅子ゲームを実施する。
- ご褒美を与えるタイミングをあらゆる場面で設定する。

助言を受けての見直し

<環境>

- ・個別の学習部屋を用意する。

<個別課題の設定>

- ・1日のうち、2回～4回抜き出して椅子ゲームを実施

<集団での授業の工夫>

- ・待ち時間が無いように、個人の活動量を増やす。
- ・個別の活動スペースを用意する。

助言を受けての指導目標

○指示に従って、椅子から椅子への移動ができる。
(椅子ゲーム)

1ブロックあたり

Step1 椅子が2個の時, 6試行×3セッション

Step2 椅子が2個の時, 10試行×2セッション

Step3 椅子が2個の時, 20試行×1セッション

Step4 椅子が3個の時, 6試行×3セッション

* ご褒美は1試行につき1個渡す。

* 授業が午前までの日は1日に2ブロック実施

授業が午後からもある日は1日に4ブロック実施

椅子ゲームの指導の手続き

- 個別の学習部屋を用意し、椅子を2つ対面に置く。
- 椅子は2mの距離を取る。
- 椅子の背に2種類のイラスト(りんご, ラーメン)を貼る。
- 椅子を指さし「りんご, 座る」と指示する。
- 逸脱なく移動できたら, 「まる」と言ってすぐにご褒美(お菓子)を渡す。
- 逸脱したら椅子に座るまで指示を出す。座ってもご褒美は渡さない。
- 最後の1試行は必ず成功して終わる。
- 1セッション終わると廊下を1周歩いてから次のセッションを行う。

記録方法と記録

逸脱なく移動したら○

逸脱したら×

$$\text{成功率} = \frac{\text{○の回数}}{\text{1ブロックの試行回数}} \times 100$$

データ

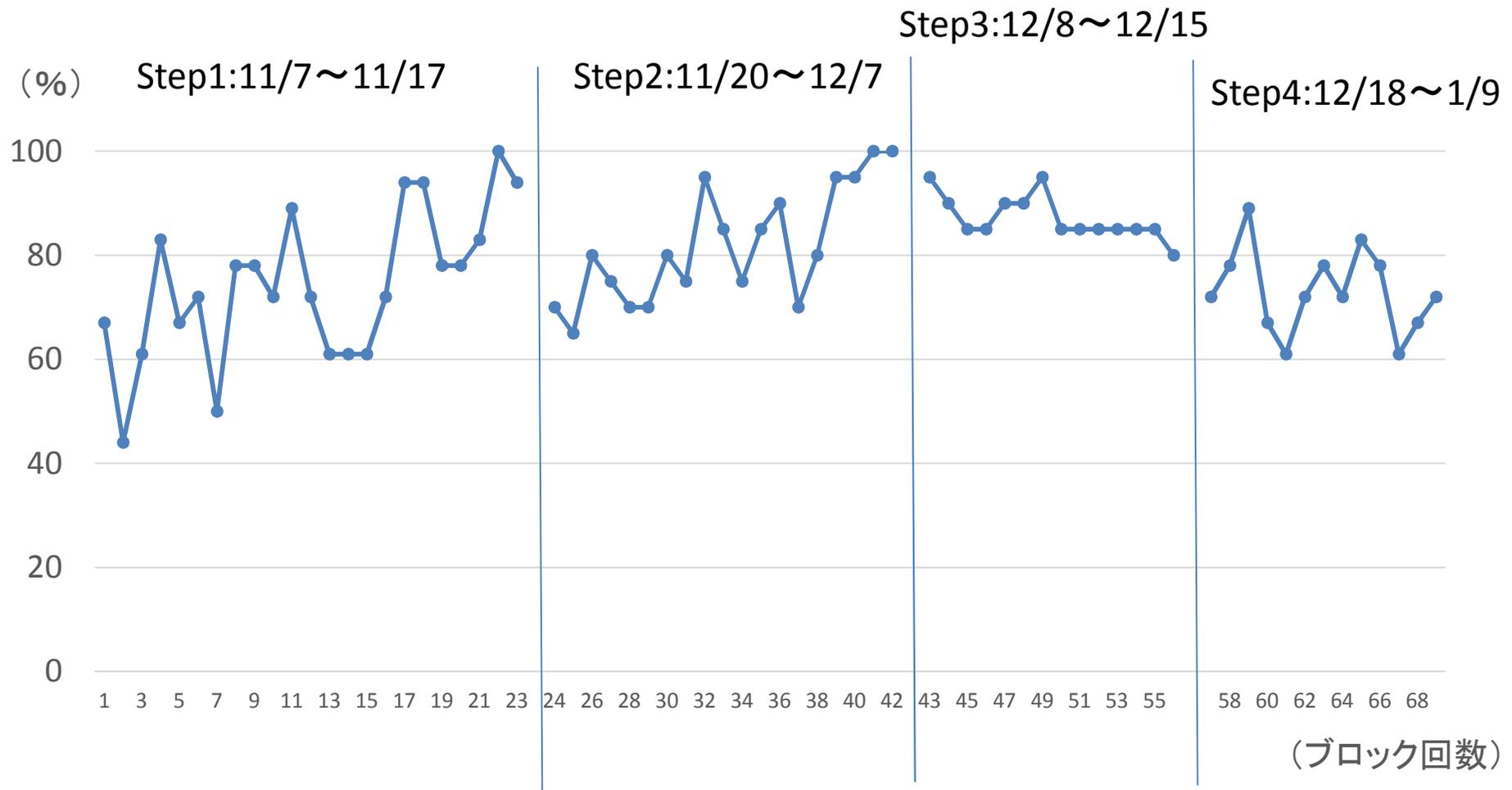
試行回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				

12/8 から 20回試行



指導の成果

成功した割合



結果と課題

○回数を重ねる毎に少しずつできるようになった。

繰り返し学習を行うことで、指示に従い行動できる回数が増えてきた。安定した試行回数を確保できたことが大きいと考えられる。

○Step3以降は安定してできていない。

1ブロックの試行回数が多くなったり、椅子が増えたりすることで逸脱する回数が増えた。

アドバイザーからの助言(2回目)

- 100%達成を継続することを目指しましょう。
- 即時プロンプト法に変更する。
- 指示以外の言葉かけを止める。
- 評価基準を明確に決めておく。
- ご褒美の内容を再考する。

助言を受けて指導手続きの見直し

- 指導目標・学習環境は同様に行う。
- StepはStep2に戻す。
- 記録方法は同様に行う。

<変更点>

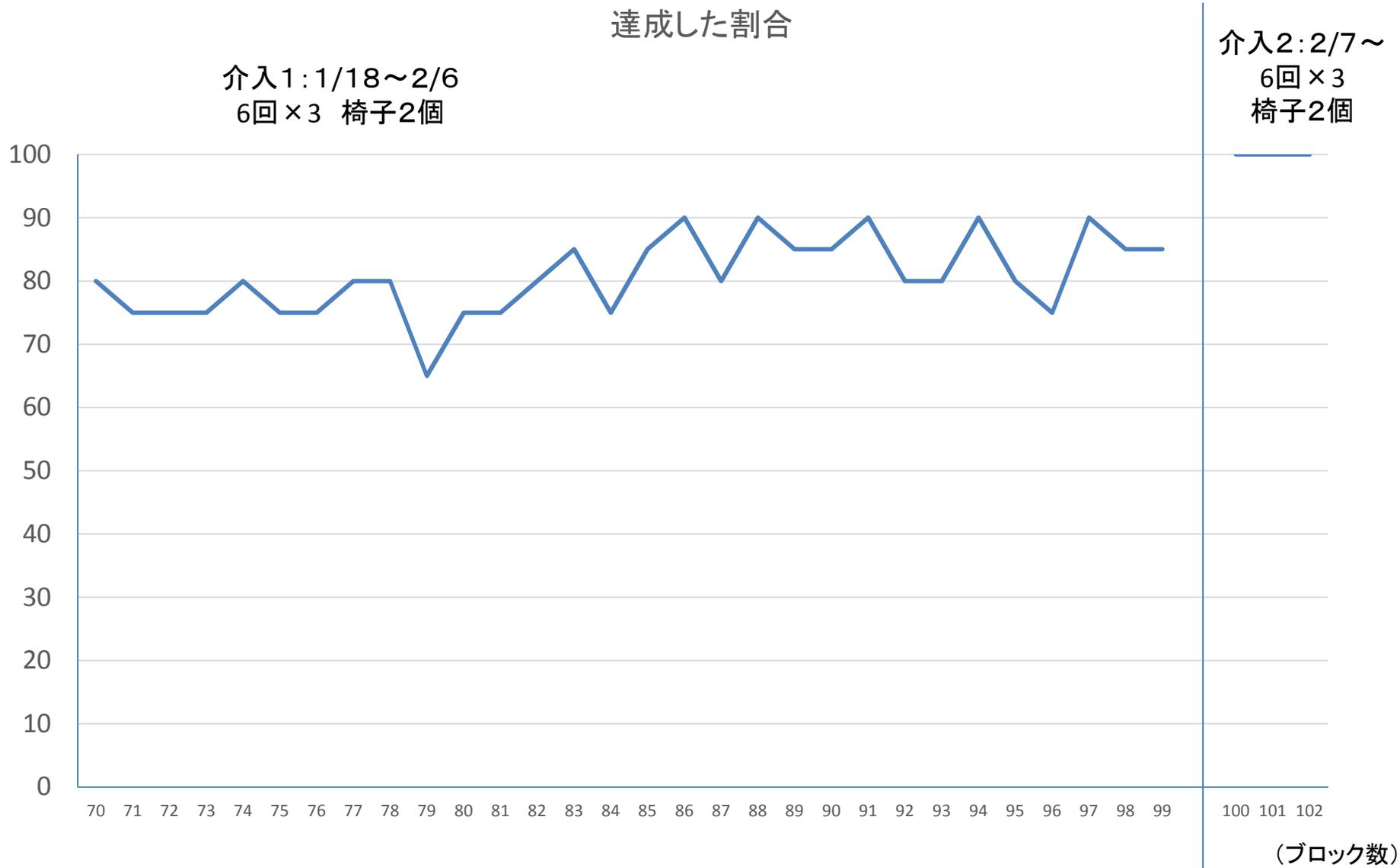
(介入1)

- 逸脱が起きたらすぐに制止し，椅子に座らせる。
- 椅子に座れたら必ずご褒美を与える。

(介入2)

- ご褒美をより興味関心を引くような物に変更する。

指導の成果



ここが成功のポイント

- 繰り返し学習によるパターン化
- 試行回数を確保したこと
- 指導時間をまばらに確保したこと
- 興味関心を引く好子を設定したこと